

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成7年9月19日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

2番	本橋	亮一	3番	三上	英男
4番	小幡	一宏	5番	忍足	利彦
6番	鈴木	順子	7番	斉藤	実
8番	増田	基彦	9番	島田	保
10番	宮沢	治海	11番	秋山	光章
12番	植木	馨	13番	脇田	安保
14番	永井	龍平	15番	山崎	雅己
16番	鈴木	忠夫	17番	岩村	勝弘
19番	川名	正二	20番	神田	守隆
21番	山中金治郎		22番	榎本	春光
23番	石井	昌治	24番	福原	勤
25番	飯田	義男			

1 欠席議員 2名

1番 辻田 実

18番 日下 君敏

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 神子 純一
経済環境部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実

助役 小幡 清之
企画部長 永野 修
市民福祉部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司
教育委員会 高橋 博夫
教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 四ノ宮 朗
書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲
書記 安田 仁一
書記 松浮 郁夏

1 議事日程(第3号)

平成7年9月19日午前10時開議

- 日程第1 { 議案第50号 館山市土地開発公社設立の主旨及び定款を定めるについて
議案第51号 工事請負契約の締結について
- 日程第2 議案第52号 平成7年度館山市一般会計補正予算(第2号)

開 議 午前10時02分

◎副議長(山中金治郎君) 本日の出席議員数23名、これより第3回市議定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長(山中金治郎君) 日程第1、議案第50号及び議案第51号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長(山中金治郎君) これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

(20番議員神田守隆君登壇)

◎20番(神田守隆君) 議案第50号館山市土地開発公社設立の主旨及び定款を定めるについてお尋ねをいたします。

まず第1点は、設立の主旨の中で用地の買収が必要不可欠とされる事業が総論的に書かれているわけではありますが、具体的にどのような事業で、どのような規模で用地買収が必要となるのでありましょうか。この公社を通じてどの程度の規模で用地買収を進めようとするのか、具体的な御説明をいただきたいと思うのであります。

第2点は、定款第1条の目的及び第19条、業務の範囲についてでございます。定款第1条では、買収を進める対象の土地としては、公共用地、公用地

等と記されています。すなわち、公共用地でも公用地でもない土地の買収もその目的に入っているわけであります。また、第19条では、業務の範囲として、公有地拡大法第5条に規定する買い取り希望の土地や、また観光施設事業に供する土地の買収など、公共用地や公用地以外の土地の買収が業務の範囲とされているわけであります。定款の規定上は、この土地開発公社は公共目的のない土地の取引も当然の業務としているように思うのでありますが、いかがでありますか。

次に、この土地開発公社は、まず公共目的の土地取得が当然第一義的な仕事だと思っております。しかし、規定としてはそれ以外の土地取引もできることとされているとすれば、そうした取引はどのような基準で行おうとするものなのか、御説明をいただきたいと思います。

第3点は、議会の議決権との関連についての問題であります。2,000万円を超え、かつ5,000平米以上の土地の取得及び処分については議会の議決案件であります。しかし、土地開発公社が買収するなどの取得の際には議会の議決にはかかりません。公社が取得すれば、事実上市で取得したこととなります。したがって、本来議会の議決が必要とされる土地取得などは、事実上議会の議決権を制約することになりかねない要素を持っているかと思います。かつて、館山駅西口の土地をめぐる裁判になった事例がありました。市の開発公社で土地買収をしたのでありますが、市が土地所有者と思って買収したその当事者以外が真実の所有者であると名を上げてきた事件でありました。まだ記憶に生々しく残るところであります。議会の議決権との関係で非常に重要な問題を持っているかと思しますので、この辺についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

第4点は、公社の業務に関して不正や、あるいは誤りがないようにするために、その監督をどう進めるのかという点についてであります。公社の人事は市長が任免するようではありますが、具体的にどのように考えておるのか。また、公社の資金に対する監督はどのように進めるおつもりでありますか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（山中金治郎君） 市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第50号に関します大きな第1、用地の買収が必要不可欠とされる内容と規模はとの御質問でございますが、主に道路、最終処分場及び公園等の用地取得の予定がございますが、財政事情を勘案しながら適宜対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、定款の第1条及び第19条についての第1点目、規定上は公共用地、公用地以外の用地も買収できるとされているが、どうかとの御質問でございますが、公共用地等の取得に伴う代替地等の取得が考えられます。

次に、第2点目、公共用地や公用地以外の買収についてはどのような基準で考えているのかとの御質問でございますが、館山市で判断をし、さらに千葉県においても公有地の拡大の推進に関する法律に基づきました審査が行われます。

次に、大きな第3、議会の議決事項を超える一定規模以上の買収は議会の議決権を制約することになると思うが、どうかとの御質問でございますが、一定規模以上の用地取得は議会の議決をいただくことになります。

次に、大きな第4、土地開発公社の人事及び資金の監督責任についての御質問でございますが、人事につきましては、設立団体の長及び理事長でございます。また、資金につきましては、設立団体の長、理事長及び役員でございます。

以上でございます。

◎副議長(山中金治郎君) 神田さん。

◎20番(神田守隆君) 今の御答弁ですと、余りにも通り一遍で、よく要領を得ない感じがいたしました。

まず第1点の、買収は具体的にどんな項目で、どの程度想定されているのかということをお尋ねしたわけですが、道路あるいは最終処分場あるいは公園、こういうふうなことでお答えがあったわけですが、具体的にどのような規模で考えられて――この公社を通じての買収ということを考

えられているのか。今後の土地買収というのは、基本的に――市が直接買収するという事例も多分あるんでしょうけれども、基本的にはすべてここで考えて買収をしていくということなのか、あるいは2本立てで考えていくのか、その辺でどういうふうな考えでいるのかということをもう少しお示しをいただけたらと思うんです。これは当面の問題ということにとどまらずに、将来中長期的な問題もあろうかと思うんで、中長期的な問題というのはなかなかわかんないのかなという気もするんですけれども、そういうことも含めてお考えをお聞かせいただけたらと思います。

それから、第2点目の問題でありますけれども、一応代替地の取得ということがあり得ることと考えているということでありまして、公有地拡大法の第5条ですか、いわゆる買い取り希望ですね。館山市内の土地で市に買い取ってもらいたいということがあったら、その土地は買いましょうよというのが――市というか、土地開発公社で買い取ってくださいというふうに希望すれば、それを買収しますよという、これが買い取り希望ですね。そうなりますと、具体的に道路予定地であるとか、何か目的があるところならばそうなんですけれども、全くそういう予定のないところでも、一応公有地拡大推進法のもとでは買い取り希望という決め方ですから、あり得ることですし、それも業務の対象範囲に入れているわけですよ。そういうことについてどういうふうに考えておられるのかということです。今のお話だと、県の審査でというお話でありましたけれども、具体的に代替地としての役割を果たすものならば、そういう土地も含めて買収対象にするけれども、そうでないものはしませんよという意味なのかなというふうに理解するんですけれども、だとすると、代替地というものについていろんな解釈も出てくるし、あいまいだなという気がするんですが、そこいらがどうなのかということです。端的に言って、Aさんの土地は買ってくれたけれども、Bさんの土地は買ってくれないとか、いろんな問題が出てきやしないかという点で、具体的な基準なりがあればということなんです。

それから、第3点目ですけれども、議会の議決権との関係でありますけれども、そうすると、議会の議決をいただくということでありまして、

土地開発公社が 2,000万円を超え、かつ 5,000平米以上の土地の取得をしようとする場合には、議会の議決にかかってからでないと土地開発公社は買収をしない、できないというふうに理解してよろしいですか。

第4点目の問題は、なかなか難しい問題を持ってしまして、全国各地のいろんなこうした自治体なんかでも、土地の取引をめぐるいろんなことが——いわゆる腐敗事件とか不正事件とかという問題がよく報道されたりするものですから、そういうことがないように万全を期さなきゃいけないということで、市の考え方をお聞かせ願いたいということなんですけれども、資金に対する監督という点で、具体的な方策——なかなかこれ難しい。法律上の問題というのはいろんな問題を持っているわけなんですけれども、何かお考えがあるかどうか、お聞かせいただきたいと思うんです。

◎副議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 第1点のこれから購入する用地の具体的なということでございますけれども、先ほど市長の答弁でも言いましたように、最終処分場——ここら辺の規模は、位置的にもまだ不明でございますので言えませんけれども、あるいはウエルネスリゾートパーク事業の用地が今の段階で、現時点においては29万 6,000平米残っておりますし、原則的にはこれを買いたいということでございますし、道路関係では工業団地の入り口の関係でございますとか、この土地開発公社を設立するときに、当然県にいろいろ出したわけなんですけれども、そのときには希望としては、各課の要望としては40万平米を超える額があったわけなんですけれども、現実にはそれらは全部土地開発公社で買うかどうかという問題もありますし、先ほど2本立てということもありましたけれども、場合によっては当然基金も、あるいは現金ということもありますし、財政規模によってこれから、あるいはその事業の進捗状況によって買収してまいりたい、こういうふうに考えております。

それから、第2点目の買い取り希望、いわゆる代替等に関する問題でございますけれども、基本的には、道路等をつくる場合に、当然そこに位置している人たちの中で代替を希望する場合には、そういう代替を探していかなければいけませんので、確かに御指摘のように拡大解釈する余地はありますけ

れども、基本的にはそういうものに対して、その代替の希望に対して、それに沿うような代替について土地を購入してまいりたい、このような基本姿勢で挑みたいと思っております。

それから、3番目の議決権の問題でございますけれども、基本的には、おっしゃるとおり、買収に先立ちまして議会の議決を得るということにいたしたいと思っております。

それから、4番目の監督の関係でございますけれども、この土地開発公社の関係につきましては、設立団体の長、いわゆる市長が毎年度、基本計画でございますとか、あるいは決算でございますとか、そういうものについては当然提出を求めてチェックをするわけですが、議会に対しても同じようなことをやるということでございますので、その中でそれぞれチェックをしていけば十分ではないか、このように判断をいたしております。

◎副議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告しない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第50号及び議案第51号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎副議長（山中金治郎君） 日程第2、議案第52号平成7年度館山市一般会計補正予算（第2号）を議題といたします。

質疑応答

◎副議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

(20番議員神田守隆君登壇)

◎20番(神田守隆君) 議案第52号平成7年度館山市一般会計補正予算(第2号)についてお尋ねをいたします。

議案書の9ページをお開きいただきたいと思います。総務費中、防災対策費として42万3,000円が計上されました。説明欄によりますと、印刷製本費とされていますが、この内容について御説明をいただきたいと思います。

次に、この防災対策に関連をいたしてお尋ねをいたします。救出機材など備蓄の問題であります。震災対策の中でも特に初動時は、市役所などの公的な機関のでき得ることは限られています。したがって、自力ないしは隣近所などの協力などででき得る限りのことをしなければならないし、しかもその初動時の対応が震災対策の中でも人命救出などでは決定的な役割を果たすことになります。文字どおり、自主防災体制をきめ細かく、それぞれの住民の生活の場の身近で確立しているかどうか震災対策の中でも決定的な影響を及ぼすことになろうかと思えます。これはまた阪神大震災の重要な教訓ではなかったかと思うのであります。自主防災体制は、同じ館山市内でも、地域によって想定される災害の内容も違ってきますし、一律にはいかないかと思えます。地域密着型のそれぞれの体制が必要だと思えます。きめ細かく、それぞれに応じて体制づくりを進めることではないかと思うのですが、この点についてどのように考えられておられますか。コミュニティ事業補助で防災対策を重点的に考えていくということが言われているわけですが、具体的にその辺の施策についてお示しをいただきたいと思います。

次に、10ページであります。10ページの一番冒頭、委託料の中で――農業振興費であります。この委託料ということで、環境にやさしい農業推進委託料30万円が計上されております。説明書によりますと、人体や環境面から、化学肥料、農薬などの節減に地域ぐるみで取り組み、環境にやさしい農業の推進を図るとしているわけであります。この30万円の予算で具体的に進めようとしているのはどのようなことなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、農薬のヘリコプターによるいわゆる空中散布が市内で行われている

わけでありますが、この空中散布は周辺環境に、あるいは人体に農薬がまき散らされるなどの問題があるということで指摘されている問題でございます。人体や環境との関係でこの農薬の空中散布についてどのようにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、11ページであります、教育振興費——中学校費ですね、この中で教育振興費ということで、委託料73万7,000円が計上されております。説明欄によりますと、研究指定委託料とのことであります。この研究指定については、現場の先生方にははなげなく済むことありますから、指定を受けますと、その分大変仕事がふえて、中学校の教育の上でも大きな重荷になるというような御意見も伺うことがあります。この研究指定の内容はどのような内容なのでありましょか。また、補正で計上されたわけありますから、なぜこの補正で計上をされたのか、その経緯について御説明をいただきたいと思うわけあります。

次に、中学校の教育上の問題として、中学校ではいわゆる教科担任制をとっているにもかかわらず、免許外教科担任が続けられているわけあります。県はこの解消についての一定の予算措置をしていると聞いているわけあります。館山市では免許外教科担任は現在どのような現況にあるのか、具体的にお示しをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（山中金治郎君） 市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第52号、これに関します第1点目、防災対策費についての御質問でございますが、昭和57年に発行いたしました「地震に備えて」、これを増版しようとするものでございます。

また、自主的防災組織の体制づくりについてでございますが、町内会ごとに多くの自主防災会が組織されまして、さらにコミュニティ事業補助金により災害用資機材の整備や訓練等により、組織の育成強化を図りながら、互いに助け合う意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

次に、第2点目、環境にやさしい農業推進委託料についての御質問でございますが、環境問題に関心が高まります中で、農業の持続的発展を基本といたしまして、化学肥料、農薬の使用を減らし、堆肥の活用、栽培技術の向上などの研究のため、高井地区のセルリー栽培組合に委託するものでございます。

次に、農薬の空中散布と環境の問題でございますが、農薬の空中散布につきましては、現段階では農業経営上ある程度必要であると考えております。

次に、第3点目、教育振興費についての御質問でございますが、教育長より御答弁いたします。

以上でございます。

◎副議長（山中金治郎君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 第3点目、教育振興費、研究指定委託料についての御質問でございますが、これは文部省の委嘱により、館山市立第二中学校が行う生徒の発達段階や能力、適性に応じた教科の履修方式を可能にする教育課程の研究開発に対する委託料でございます。

また、免許外教科担任についての御質問でございますが、市内中学校の免許外教科担任の状況は、平成5年度20名、平成6、7年度は各18名となっております。そのうち、国語、社会、数学、理科、英語につきましては、平成5、6年度各1名、平成7年度は2名でございます。この7年度の2名にはチームティーチングの補助教員としての教諭1名が含まれております。なお、解消に当たりましては、引き続き県教育委員会に要望してまいります。

以上です。

◎副議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 震災対策の関係でありますけれども、やはり初動時の関係では、自主防災会の役割、この果たすところは大変大きいというふうに私は思うんですけれども、市としてもそれなりの対応ということで、初動体制の充実ということで、いろいろと今回も当初予算に予算が盛られているということで、それは非常に重要なことだというふうに思うんですが、具

体的にどのようなことについて — 例えば、予算書等によりますと、食糧費で備蓄食糧は 700万だとか、あるいは防災機材庫、あるいは機械器具等の購入費ということで予算が計上されて、一定のハード的な面での整備というのがどれくらいされたのかな、またどのくらいされようとしているのかなという点、市としてはどのような考えでどの程度までことしの予算で計上されたのか。

それと、やはり同時にソフトの面といいますか、そういう市のハードの面の整備と同時に、それを十分 — 住民自身が震災ということになった時点で十分それを使いこなして有効に活用できるかどうかという問題があるかと思うんで、そういう点ではどのような考え方をお持ちになっているのか。率直に言って、現在の自主防災会の体制は、もっときめ細かく体制上も考えなきゃいけないし、日常的な訓練なんかも考えなきゃいけないしというふうに思うんですけれども、そういう点はどういうふうにお考えになっているのか。

それから、いわゆる農業振興の問題、空中散布なんかの問題でありますけれども、一応高井のセルリー組合ですか、ここに今回予算措置ということで委託をするということでありますけれども、非常に部分的で限られている内容かと思うんですが、しかし目的に掲げていることは大変大きな問題なわけです。非常に狭い範囲内で、限られたところでやっているのは、1つの実験的な、先進的なというような意味合いが強いのかな、今後はこういうことを含めてもっと大規模にいろんなことを考えていこうとしているということなのかな、そういう意味で評価できるのかなという気がするんですが、そういう点からどうなのか。

それから、やはり大きな問題は、水田の農業散布は非常に大規模に行われるわけで、うちはそういうのはまいてほしくないというふうに言っても、そこだけ避けてというわけになかなかいきづらいという問題を持っていますし、現実に農業散布のときには、こういう一般の人家への影響も相当考えなきゃいけないという問題を持っているわけです。いわば空中散布というのは一網打尽方式ですから、例えば蛍ですとか、あるいはトンボですとか、こういう生物全体への影響ということも非常に危惧されるという問題を持っていると

思うんです。したがって、先ほどの御答弁では農業経営上必要だ、それもよくわかるんです。しかし、そういう環境への影響というものもかなり大きな問題で言うこともありますから、そこいらの点からやはり見直しをしていくというようなことを考えなきゃいけない時期なんではないか。空中散布を始めて10年以上たっているかと思うんです。しかし、こういうようなことで、現在の空中散布のあり方を見直ししていくというふうなお考えはないのかどうかということです。

それから、中学校の問題でありますけれども、二中で、生徒の発達段階にかかわる研究開発というふうなことで、大変御苦労なことだ。大変な先生の御負担もあろうかと思えます。率直に申しまして、大変なことだなと思うんですが、教育は館山のことだけ考えてというわけにもいきませんから、ある意味ではやむを得ないという面もあろうかと思えます。

そういう中で、先生の負担も大変あるわけで、一方でこういう免許外教科担任というふうな負担はできる限り早く解消していくということも格段のやはり努力をしなければいけないなということでお尋ねしたわけですが、率直に言って、余り変わっていないということを感じざるを得ないんです。県が県の単独事業として免許外教科担任の解消策ということをやっても、館山には実際には適用は全くなかったということで、県の免許外教科担任の解消についての対象をやはり拡大をして、館山なども対象にしてもらっていくというふうなことは運動していかなきゃいけないなと思うんですが、その辺の現況はどういうふうになっておられるか。

それともう一つは、一応主要5教科については、全体としては低いけれども、しかし現実にはまだあるということで、非常に大変なことだなと思うんですが、具体的にはいわゆる美術とか技術とか、こういう教科が多いというふうに伺っているんですが、実際そういうふうな教科ということなんでしょうか。

以上、お聞かせいただきたいと思えます。

◎副議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） まず、第1点目の防災対策の上での備蓄等

のハード面でどうかという御質問でございますけれども、今年度予算で食糧備蓄ということで、乾パンあるいはサバイバルフーズ、こういったものを5万食、さらには来年度 ― 計画でございますけれども、さらに5万食という、当面は10万食の備蓄をしようということで計画をいたしているわけでございます。それから、救出救命機器の備蓄ということで、これも今年度予算で約1,500万、それから倉庫として2,000万ですけれども、こういった救出救命機器 ― 機械器具として911万、あるいは工具類として231万といったような内容で、備蓄すべき手続を今準備中でございます。

それから、ソフト面での充実ということで、先ほど市長から答弁いたしましたとおり、まず地域の防災は地域の住民で守るんだという基本的な姿勢でコミュニティ補助事業の拡大を図ったわけです。こういった拡大を図ったことによって、自主防災会のこういった機器をより有効に活用してほしいということで、今後行政のサイドからも指導してまいりますし、自主防災会の積極的な取り組みを期待をいたしているところでございます。

以上です。

◎副議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、環境にやさしい農業の推進につきまして、今回高井のセルリー組合に委託をしたところでございますが、実験的なものかというような御質問でございますが、今回の委託につきましては、そのように私どもは受けとめているわけでございます。ただ今後、化学肥料の多用によりまして地力が低下しているというようなこともございまして、地力を回復するというようなこと、それからいわゆる消費者の安全性の追求というような考え方の中で、農業に対する考え方も変えていかなければならない。そういうふうな意味で、この事業を契機にいたしまして拡大をしていく、こういうふうな認識を持っております。

それから、空中散布の件でございますが、農業に従事されております労働力も高齢化をしている、それから広域的、省力的な防除ができるということ、ひいては生産コストの低減につながるというようなことから、防除といたしましては非常に有効な手段というようなことで現在は認識をしておるわけで

ございます。ただ、御指摘のように、生態系等に与える影響というものは皆無ではないわけですので、新しい技術等の進展を見合わせながら、将来的にはなるべく ― 見直しというような議員さんの御指摘がございましたんですが、そのような方向でいくべき、このように考えております。

以上でございます。

◎副議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 3点にわたりまして御答弁申し上げます。

第1点目の第二中学校の研究学校でございますけれども、この研究学校は研究開発校ということで、全国1万551校中の同一課題に対しまして、公立の中学校では2校がこのテーマでもってやっていることで、本市にとりましても、学校にとりましても、大変名誉な1つの研究の素材をいただいたというふうに解釈をしているわけでございます。

なお、先ほどの御質問で、なぜこの補正になったかということでございますけれども、指定が6月時点でございましたので、もろもろのことの連絡等ということで、本日のところへ御上程を申し上げるということでございます。

また、この二中の研究等につきましては、現在の学習指導要領の基準によらない特例が認められまして、学校独自に研究開発をし、やがて来るだろう教育課程の改善の資料といたしまして提供するわけございまして、地域色ある1つの教育課程を独自に編成をすることが可能になってきたわけでございます。その結果、いろいろの面でもって教員数の増の問題が ― いわゆる免許外の先生方の問題にかかわってくるわけでございますけれども、御存じのとおり、平成5年度より教職員の数が ― 第6次の加配ということがございまして、現在それぞれ中学校の教員の一定の数よりもプラスされまして、チームティーチングとか、中学校においては選択履修とかということで、増員を館山市はいただいております。そこで、ある程度職員の時間数の減少というのが1つと、それから指導方法の改善ということで、子供たちの学習の1つの意欲の問題や自主性の問題とか、そういうようなところへもかかわってくる、教員としてそれが役立っているといえますか、非常に効果を来しているということで、現在館山市も、このように中学校におきましてもいた

だいておりますし、研究学校につきましては、特別に1名の増員をいただいております。

そして、現在の課程におきましては、先ほど議員さんのおっしゃるように、主要教科以外の選択履修の問題の教科としての技能教科的なことが出ましたけれども、現在2年生、それから3年生につきましては、選択履修の教科時間数が多くなり、子供のいわゆる希望数を持ちますという、教員にも限度がございますので、そういう中でありますと、どうしても教科以外ということに立ってくるわけで、そういうものがやはり——必修教科以外のものにつきましては、やはり教科担当の免許外の教員を採用せざるを得ないという現状が出ております。また、現在研究開発校であります二中の選択履修というものも多く取り上げておりますので、そんな関係からいたしましても、今後教員の定数問題ということ、事業内容との絡みでもって、改善するような1つの具体的な事例を県及び文部省に直接ぶつけることができると私は考えております。

以上でございます。

◎副議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告しない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第52号は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎副議長（山中金治郎君） なお、この際申し上げます。

9月8日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会及び特別委員会に送付いたしましたので、報告をいたします。

延 会 午前10時45分

◎副議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明20日は議案調査のため休会、次会は9月21日午前10時開会とし、その議事は平成6年度各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第50号乃至議案第52号